

『滝川市新小学校整備基本計画策定に向けた意見募集』の実施結果について

このたび実施いたしました意見募集について、下記のとおり実施結果をご報告いたします。

1. 意見募集期間

令和7年4月15日（火）から令和7年5月15日（木）まで

2. 意見募集方法

オンラインフォームにて意見を募集

※効率的な意見収集と迅速な対応を目的として、オンラインフォームのみでの受付。

※提出された意見には個別の回答を行わず、基本計画策定の参考として活用。

3. 意見提出者数

8名

4. 年齢

- ・30歳～39歳 4名
- ・40歳～49歳 1名
- ・50歳～59歳 2名
- ・60歳以上 1名

5. お子様の就学状況（重複あり）

- ・該当なし（子どもはいない） 2名
- ・未就学児（0～5歳） 4名
- ・小学生（6～12歳） 2名
- ・大学生以上（18歳以上） 1名

6. お住まいの地域の小学校区

- ・滝川第一小学校区 5名
- ・滝川第二小学校区 1名
- ・滝川第三小学校区 1名
- ・東小学校区 1名

7. 意見一覧表

別紙のとおり（※個人情報を除き、原文のまま掲載しています。）

滝川市教育委員会
学校運営課新しい学校づくり推進室

■「滝川市新小学校整備基本計画策定に向けた意見募集」結果一覧表 (募集期間 R7.4.15~5.15)

No.	年齢	お子様の就学状況	お住まいの地域の小学校区	カテゴリ1	新校舎に取り入れてほしい機能・複合化してほしい施設等	カテゴリ2	その他
1	50歳~59歳	該当なし (子どもはない)	滝川第一小学校区	コミュニティセンター	第一小学校の地域には、町内会で使用している会館があり老朽化が進んでいるが、将来的に建て替えることは現実的ではないと思っている。児童の見守り役として地域住民は重要な役割を担つており、高齢者と児童の世代間交流がもたらす効果は、子どもにとって思いやりの心が芽生え、社会的スキルや対人関係の学習に役立つだけでなく、地域文化の継承にもつながることから、コミュニティーセンター機能を複合化した学校開放を是非お願いしたい。これが実現すれば、会館の廃止も可能となり、その用地を学校関係者の駐車場などとして活用することも出来る。	説明会、駐車場	地域にある小学校の建替えは、該当するPTAだけでなく地域住民にとっても大変重要なことであるため、説明会などの場を設けてほしい。昨年、第一小学校近くにある仲よし公園が廃止になったと聞いた。この公園の土地は学校からも近いため、小学校行事の際の臨時駐車場や職員駐車場、あるいは将来的な共同調理場の用地として利活用が出来ないか。
2	30歳~39歳	小学生(6~12歳)	滝川第三小学校区	部活動地域移行	部活動の地域移行が、急速なペース過ぎて子どもが置き去りにされている。公共施設を複合化する可能性も視野に入れながら、施設面でも後押ししてもらいたい。ただし、公共施設が絡むとセキュリティの問題があるため、子どもの情報や安全が守られるよう充分に注意する必要がある。	-	-
3	30歳~39歳	未就学児(0~5歳)	滝川第一小学校区	児童館	児童館機能を複合化してほしい。	駐車場	行事の際の駐車場が少なすぎるので確保してほしい。
4	30歳~39歳	未就学児(0~5歳)	滝川第一小学校区	統廃合	町の規模に対して学校が多すぎるので、まずは他校を第一小へ集約させるのを最優先にすべき。砂川や新十津川は1つの学校に集約しているのに滝川は集約のスピードが遅過ぎます。中途半端なプライドを捨てることと、地域のハーレーションに怯え過ぎないことが大事だと思います。駅周辺を停止させましたが、英断だと思います。まずは中学校を含む全ての学校集約を終えてから駅周辺整備を進めるべきです。駅周辺整備より学校が大事です。	駐車場	駐車場がないと困るので、近隣にでも十分な駐車場スペースを確保してほしいです。
5	30歳~39歳	未就学児(0~5歳)	滝川第一小学校区	児童館、コミュニティセンター	児童館やコミュニティセンターの機能を複合化したら放課後の子供達の居場所が出来て良いと思います。	駐車場、道路	学校の敷地が狭いので、現在の第一小学校の西側敷地と裏一の坂通りの間にある緑地を学校敷地に広げて有効活用出来ないでしょうか。敷地に余裕が無いので、職員駐車場は学校敷地内ではなく、近くの空き地で良いと思います。あとバスを走らせることを考えると、第一小北側の道路は狭過ぎるので、学校敷地を縮めてでも道路幅を広げないと事故が起きる可能性が高くて危険だと思います。
6	60歳以上	該当なし (子どもはない)	滝川第二小学校区	統廃合、学校開放	少子高齢化が確実に進む現在、学校の統廃合という考えが優先されるのはやむを得ないかもしれません。しかし地域が衰退しないためにも、学校は地域に根ざした公共の施設として、新たな役割を期待されるのではないか。実現は可能だと思いますが、一般市民が利用できる体育館として、映画やコンサート、地域のお祭りやバザールなどに開放する。使用責任者を明確にして、教頭ほか学校職員の負担にならないような仕組みを考える。また高齢者が気軽に立ち寄るフリースペースとして図書室の開放、簡単な学習が出来る生涯学習の場として、放課後の児童と一緒に相互交流するプログラムを構築し、学校が地域と密接な関係を築いていく。地域の避難所として本当に活用出来るような設備や物資の保管場所等を確保する。色々思いつきますが、学校が安全管理上、地域開放のハードルが高く、第二小学校も建て替えの際には、開放部分と教室等などが完全に分離出来る、もしくは安全対策が施せる造りになると良いと願います。学校を中心に、その地域が元気になれば良いですね。	統廃合	建て替えや統廃合というと、吸収された地域が衰退します。規模を縮小しても、今ある学校の存続を求める。
7	50歳~59歳	大学生以上 (18歳以上)	滝川第一小学校区	ホール	もう駅前の投資はやめて、学校にホールも入れて複合化したら良いじゃないですか。どうしてもホールを作りたいのであれば第一小は狭いから無理でも、その後の中学校建て替えの時にホールも複合化した中学校を作れば良いのでは?ホールよりまずは学校でしょ。ホテルズエヒロのところで何とかなってるんだから子供のための施設を優先した方がいい。中学校も古過ぎて子供達が可哀想です。	道路	第一小は周辺道路が狭過ぎてスクールバスが走るには危ないと思います。
8	40歳~49歳	未就学児(0~5歳)、小学生(6~12歳)	東小学校区	-	-	適正規模、適正配置	少子化や人口減少の影響で、日本全体の母体数も減っている現状があります。そんな中、「滝川市立小中学校の適正規模」について、見直すべきであると考えます。小学校を各学級、2クラスの規模というのは、今の滝川市の現状に合いません。滝川市の広さを考えれば、現在の学校数が妥当であると考えます。それは学年1クラスであってもです。滝川市の子供の総数、人口の数が減ってしまっているので、1クラスになるのは仕方がないことでしょう。子どもたちが徒歩で通える範囲内に学校がある、それが、子どもたちと地域の浸透につながるはずです。徒歩通学による体力の向上、細やかな指導による学力の向上にも、つながっていくと思われます。無理に適正規模も求めて、学校がなくなれば、児童はバス通学を余儀なくされます。そうすると、児童の心のバランスが崩れる子もいるでしょう。人間関係の固定化というデメリットよりも、心の安定を第一に考えるべきです。また1クラスだからこそ、少人数だからこそ、しっかりと見えてもらえるという安心感ができ、自分たちの身近な地域の学校という意識になるはずです。学校がなくなれば、その地域全体が廃れます。それは滝川市の力そのものが削がれることに他なりません。コンパクトシティも大切ですが、街そのものの活力がなければ元も子もないはずです。適正規模の考え方方が縛りを与えていると思います。ありきの考え方をやめ、見直し、子どもたちの心と健康、地域について、考えてほしいと思います。